

「大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍」入院診療計画書

様

特別な栄養管理の必要性 (有 ・ 無)

主治医

担当看護師:

患者様サイン欄:

経過	入院～手術前々日	手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1～2日目	手術後3日目	手術後4～6日目	手術後7～14日目
治療について (手術日・退院日など)				(ICUへ入室の予定)	(病棟へ帰室予定)			点滴、ドレーンが抜け食事が十分に摂取可能なら退院可能です。
安静度 リハビリについて	病院内を自由に歩くことができます。 		車いすか歩いて手術室へ向かいます。	ベッド上で安静にしてください。寝返りや膝たてはできません。	座位から立位へと徐々に離床を進めます。歩行も可能です。			
食事について	食事は摂れますが、ご本人の状態や検査の内容により食事制限があります。	食事は昼食までですが、ご本人の状態によって変更します。 水分は21時まで摂れます。	飲んだり食べたりできません。うがいはできます。 		2日目から水分が摂れます。		4日目から流動食を開始します。 	徐々に食事の形態をアップし7日目には全粥になります。 栄養士から退院後の食事について説明があります。
薬剤について (点滴・内服など)	ご本人の状態や検査により点滴を行います。今まで飲んでいた薬は医師の指示にしたがって下さい。	午後1時に下剤を飲みます。点滴を行います。	朝から点滴を行います。 内服薬は中止して下さい。	点滴を行います。背中から持続的に痛み止めを行います。	痛み止めの薬がなくなったら背中から管を抜きます。 		医師の指示により内服薬が再開になります。	食事が十分に摂取できるようになったら点滴は終了です。 薬剤師から退院後の薬の内容と管理について説明があります。 
検査について	(手術の前日までに) 外来で行わなかった検査や適宜追加が必要な検査を行います。 			採血とレントゲン検査があります。	1日目: 採血とレントゲン検査があります。	採血やレントゲンは適宜行います。		
処置について (ガーゼの交換など)	呼吸訓練を行います。適宜術後も行います。痰を促す為に吸入を行うこともあります。臍部をきれいにします。		朝6時に浣腸をします。点滴の針を入れたままにしておきます。病衣に着替えて、弾力性のストッキングを着用します。	酸素マスク、心電図モニターをつけます。鼻の管は入れたままにしておきます。 お腹に管が入ってきます。	1日目: 医師の指示で酸素マスクを外します。鼻の管を抜きます。お腹の診察をします。歩行可能ならストッキングを外します。	お腹の診察をします。	4日目以降にお腹の管を抜きます。	
清潔について (シャワー・入浴など)	入浴は指示にしたがって下さい。	必ず入浴して下さい。 	入浴はできません。 	汗をかいたらその都度体を拭きます。	看護師が蒸しタオルで体を拭きます。 	洗髪、下半身シャワー浴が出来ます。	お腹の管が抜けた方は絆創膏を貼ってシャワー浴が出来ます。	
排泄について			手術中に尿を出すための管を入れます。	尿の管は入れたままにしておきます。	歩行が可能なら尿の管を抜きます。その後は尿の測定を行います。		5日目まで尿の測定を行います。尿の回数をチェックしてください。	
患者さん及びご家族への説明	手術前後の経過について説明します。入院中はタバコは吸えません。 			医師から手術の結果についてご家族の方に説明がありますので、手術室の前でお待ち下さい。			看護師から食事について説明します。	医師から退院について説明があります。看護師から退院後について説明します。 

注1) 病名等は、現時点で考えられるものですので、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

注2) 入院期間、表記の日時については現時点での予定です。

注3) ご質問等ございましたら、お気軽にスタッフまで声をかけて下さい。